



第2回 AI品質マネジメントシンポジウム・登壇レポート

📅 2023-12-12 10:00 📍 Ikuko Kanazawa 🗂 セミナー
📌 AI, IoT, Tech, Event, Member

10月末に開催された国立研究開発法人産業技術総合研究所（以降、産総研）主催/第2回 AI品質マネジメントシンポジウムに、コニカミノルタから品質本部・小宮山 英明さんが登壇しました。今回はそのレポートを通じて「AIの品質保証」という、AIを使って製品・サービスを提供するときに重要な活動についてお伝えできればと思います。

目次 (目次表示)

1. AI品質マネジメントシンポジウムとは
2. コニカミノルタでのAI品質マネジメントの取組み
3. パネルディスカッション
4. おわりに
5. 参考

AI品質マネジメントシンポジウムとは

AIが産業や行政、日々の生活にまで様々な形で取り入れられてきている事に伴い、AIの品質マネジメントは大変重要になってきています。ただ、このAIの品質マネジメントは、従来型の品質管理では対応できないといった課題があり、研究機関やコンソーシアム、各企業において研究・実践が進められています。

産総研では、企業・大学・国立研究機関などの有識者委員とともに構成した「機械学習品質マネジメント検討委員会」を立ち上げ、機械学習品質マネジメントガイドラインといった成果を広く世の中に公開、それを企業が実践する、ということも進んでいます。このような産総研での取組み・成果の共有や、産学官からの有識者を招いてAIの品質管理に関する世の中の動向や取り組みの現状と課題、今後のアクションについて議論するため2022年よりAI品質マネジメントシンポジウムを開催しています。

第2回となる今回のシンポジウムでは、これからAI品質マネジメントに取組もうとする方々にとって参考となるよう、国内先進企業における事例の紹介が多数ありました。（[参考](#)）

その中で、実践企業5社からのパネリストによる「企業におけるAI品質マネジメントに必要な視点-社会実装に向けて-」というパネルディスカッションに、コニカミノルタからは品質本部・小宮山さんが参加し、社内でのAI品質保証活動を通じた気付きや課題について議論しました。

コニカミノルタでのAI品質マネジメントの取組み

コニカミノルタではFORXAIを始め、AI技術の開発、それを使った製品・サービスの提供をしており、早くからAI（主に機械学習）はその特性を考慮した品質保証のやり方が必要になることを認識していました。2020年には「[ML品質保証ガイドライン](#)」（ML=Machine Learning）という、社内のベストプラクティスをまとめたガイドラインを発行、様々な事業部でガイドラインに基づいた品質保証を実践しています。先述の産総研の機械学習品質マネジメントガイドラインを始め、世の中のAI品質保証に関する考え方やガイドラインも参考にアップデートを続けています。

2021年には「[グループAI利活用基本方針](#)」策定、2022年にはその基本方針に基づき、AIを活用する全ての商材に対してリスクアセスメントを実施、AI倫理審査委員会にて審議したうえでリリースしています。リリース済の商材についても、リスク発生のモニタリングの運用を開始しています。（AI利活用に関する活動のまとめは[こちら](#)）

その他にも、AI品質保証の教育、AI事故発生時の運用など、様々な取組みを進めています。



これら取組みの主要メンバーとして活躍しているのが小宮山さんです。AI等、新しい技術を製品・サービスとして世の中に出していく際に必要な品質保証について検討、社内普及を行う新規事業品質保証部に所属しています。

自己紹介

氏名：小宮山 英明
コニカミノルタ株式会社 品質本部

経歴

- 情報機器、介護ソリューションのソフトウェア開発
- 新規事業領域の品質保証
- AI/パナソニックの全社実践の推進

現在の業務

- AI品質保証のガイドラインの開発、運用
- AI品質保証の社内教育の講師
- AI利活用アセスメント、品質保証の支援

関わったAI商材

AI（ML）品質保証のガイドラインの開発・運用をほぼ一手に担い、特にAI品質保証の教育は小宮山さんが一から作り上げたオリジナルで、AI品質保証の考え方・ガイドラインの内容を解説する専門的な内容も含んだ教育なのですが、これまで6回開催、100名以上が受講しており、今後も社内でAI品質保証をしっかりと実践していく礎となっていくことでしょうか。

パネルディスカッション



AI品質マネジメントシンポジウムのパネルディスカッションは、「企業におけるAI品質マネジメントに必要な視点-社会実装に向けて-」をタイトルに、各社でAIの品質マネジメントを実践している5社からパネリストが集まり、大きなトレンドとなっている生成系AIも含めた幅広いトピックについて議論されました。その時の小宮山さんのお話を中心にご紹介したいと思います。

【生成系AIなど新たなAI潮流への対応】 トピックでは、コニカミノルタでの生成系AIを取り入れた商材への対応についての紹介や、基盤モデルを含むAIをサービスに組み込んでいる場合、基盤モデルが頻りにアップデートされることもあり、定期的な評価・検証が必要だと思うものの、人手で実行することは限界があり、自動テストシステム等が望ましい。そのための評価の枠組みや指標などが定量化できると生成系AIの活用がさらに進むのでは、というお話をしていました。これは実際に社外・社内向け共に活用実践が進みつつある中での課題です。（余談ですが、コニカミノルタの生成AIについての取組みについては『[生成AIに取り組み全社横断のチームを編成～基幹技術の導入と安心・安全の両立を目指す](#)』にて紹介しております）

【AI品質マネジメントの事業プロセスへの組み込み】 トピックでは、既存のプロセスがある中で、AIの品質保証に関わる活動を重複なく入れ込むのが理想ながら、まだ実践では試行錯誤している部分もあることを率直にお話していました。いかに現場での混乱・負担なく必要な活動を実践していけるかが重要とのこと、これからもより良い形を目指して取り組んでいくべきところでした。

【ビジネスエコシステムの構築】 トピックでは、各社個々で取り組むのではなくエコシステムとして大きく検討・共有する枠組みの必要性について様々な意見が出てきていました。小宮山さんご自身が力を入れている教育について、個社で実施できる教育の範囲や回数はどうしても限られてしまうので、エコシステムで取り組むことで人材育成の機会が増えることへの期待をお話していました。実践には、実践できる「人」が不可欠です。続く質疑の場でも関連した質問があり、教育による人材育成に加えて、品質本部による支援、特に最初は現場に入り込んで一緒に考える等、実際の進め方のポイントも紹介していました。



最後に、小宮山さんから、AI品質マネジメントシンポジウムを終えての感想を頂きました。

会場参加、オンライン合わせて350名以上が参加しているため、AIの品質への関心の高さを感じました。私個人的にも社外の大きなイベントで、AI品質保証に関する自分の考えを大勢の前で話すことがないため、非常にいい経験になりました。品質保証の実践や教育など、共通の課題であることを認識し、協力できることは、協力することにより、日本全体のAIの品質が向上し、日本のAIの競争力の強化につながると思います。会場で参加されていた人からも、コニカミノルタでのガイドライン→教育→事故対応の進め方は納得性の高い進め方であるともコメントを頂き、正しい進め方が出てくるのだと実感できました。

コニカミノルタのみならず、広く社会のAI利活用に向けて、これからも小宮山さんの活躍に期待しています！

おわりに

今回はAI品質マネジメントシンポジウムでのコニカミノルタの登壇レポートを通じて、コニカミノルタにおけるAI品質マネジメントの取組みや推進者の活躍についてご紹介させて頂きました。実際に製品・サービス開発に携わっている方でないともあり気になることのない取組みがもしもあれませんが、新しい技術を世の中に入れていく形で進んでいくため品質保証は不可欠です。品質保証にしっかりと取り組んでいること、これもコニカミノルタというメーカー企業の強みだと思います。今後ともAIの適正な利活用を推進し、より良い社会の実現を目指していきたいと思っています。

コニカミノルタは画像IoTプラットフォームFORXAIを通じて、お客様やパートナー様との共創を加速させ、技術・ソリューションの提供により人間社会の進化に貢献してまいります。

参考

- [第2回AI品質マネジメントシンポジウム \(産総研\)](#)
- [機械学習品質マネジメントガイドライン \(産総研\)](#)

新卒採用については以下の採用情報ページをご覧ください。

新卒採用情報 - 採用情報 | コニカミノルタ

コニカミノルタの新卒採用サイトです。募集要項や募集職種などの採用情報から、プロジェクト紹介、社員インタビューなどを掲載しています。ぜひご覧ください。

KONICA MINOLTA

中途採用に関する情報については以下の採用情報ページをご覧ください。

キャリア採用情報 - 採用情報 | コニカミノルタ

コニカミノルタキャリア採用情報 現在の募集職種にはこちらからエントリー可能です。募集要項、先輩インタビュー、人事部からのメッセージなどを掲載。

KONICA MINOLTA

Ikuko Kanazawa
技術開発本部 技術戦略推進部 所属。 全社のAI利活用推進担当。

前の記事
自律移動ロボットに関するイベント「つくばチャレンジ2023」に向けて実験走行を実施しました！

次の記事
FORXAIパートナーアワード：画像IoT技術紹介：画像ベース検出

- シェアする
- Xポスト
- Facebook
- Pocket
- LINE
- LINEで送る